

障害者卓球アジアで「銅」



障害者卓球のアジア選手権で獲得した個人の銅メダル（左）と団体の銀メダルを手にする立石アルファ裕一さん

博多区の立石さん 装具の不安解消

「東京パラ五輪 絶対出る」

中国・北京市で開催された障害者卓球のアジア選手権（8月23～31日）で、福岡市博多区大博町の立石アルファ裕一さん（33）が個人銅メダルに輝いた。団体も銀メダルを獲得。昨年、リオデジャネイロ・パラリンピックを目指しながら世界ランキングが出場資格に届かず涙をのんだ立石さん。今回の好成績でランキングの上昇が期待され「2020年の東京大会こそ絶対に出る」と燃えている。

先天的に両足つま先に力が入らない障害のある立石さんは、障害者卓球では立って試合ができる中で中程度の障害とされる「クラス8」。パラリンピック出場はランク16位以内が条件となるが、リオ前に25位までしか上げられなかった。

今季から前傾を保つ装具を両足に着けるが、不慣れなまま出

た世界選手権（5月、スロバキア）は、負けが込んでランキング38位まで後退。ペアでは相手のポーランド選手から、動きの悪さに不満を言われたという。健常者卓球で活躍した弟の立石イオタ良二さん（32）のコーチで筋力アップや体幹トレーニングに取り組み、装具への自信を深めて臨んだ今大会。

格上に競り勝つ形で予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメント1回戦も過去接戦だった相手にストレート勝ち。準決勝の中国選手はロンドン、リオを連覇した第一人者。1-3で敗れたが、1セットをもぎ取る健闘を見せた。「取られたセットも粘れた。最強の相手に『自分の攻めが通用する』と手ごたえを得られたのは大きい」と話す。

次の目標は10月にタイで開かれる国際大会。「装具の不安も消え、今はランキング10位台の強豪とも互角に打ち合える自信がある。タイで勝ってランキングを上げたい」と語る視線は、東京を見据えていた。（益田孝）